

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
メイク・ヘアー・ネイル技法 Make-up, Hair, and Nail Technigues		1年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(特になし)	集中授業 3テーマを必ず受講すること
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ファッションフィールド関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ファッションフィールド関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小山隆人・杉山智明・頼実祐子	非常勤講師室			授業中に指示します
授業の概要				
ファッションは個人のアイデンティティを表現する重要なアイテムである。ファッションビジネスでは常に受けて側がどのようなものを求めているか、敏感に受け入れる感性が必要とされる。ヘアー・メイクやネイルの技術を学び、ファッションをトータル美で提案し、実践できるよう講義・演習をとおして習得する。				
授業の目標				
①ヘースタイル表現のために、必要な道具や使用法と、ファッション表現にあったヘアーの基礎技術を習得する。 ②メイクの基礎知識を理解し、各人にあったメイク表現、しだいに就職活動やファッションショーに合わせたメイクができるよう知識と技術を学ぶ。 ③ネイルはファッションのトータル表現として重要である。和装・洋装のTPOに合わせた表現や季節にあった利用法をできるようにする。 ③各テーマの技術習得がトータルコーディネートテクニックとして重要であることを学ぶことができ、写真撮影やファッションショーなどの応用表現できるようにする。				
授業の方法				
講義と演習で行う。毎回授業内容は異なり、実技やレポートの提出をする。化粧品の種類や道具の使用法を学び、個人の肌診断も行う。テーマ別に、基礎知識を理解し、基礎技術、各人に合わせたメイク・ヘアー・ネイル表現、しだいにファッションに合わせたコーディネート表現をする。作品は発表形式で表現の多様性を理解し感性の向上を目指す。ファッションショー表現のための練習や撮影なども練習する。(教材は個人と共同使用に分け、共同使用分は集金する)				
学習の成果(学習成果)				
①ファッションとメイク・ヘアー・ネイルのトータル美を学ぶことができる。②TPOに合わせて、自らのメイク・ヘアー・ネイルの表現をすることができる。③商品企画やデザイン、販促関連業務まで、初歩的なトータル美の感性でアドバイスすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ヘアー① ヘアーセット一式道具の説明と使用方法・専門用語の説明			担当：小山
第2回目	ヘアー① 道具の展示と実技			担当：小山
第3回目	ヘアー③ スタイルの基礎 (ピンの止め方、逆毛の立て方、編み込みの方法と基本のヘアーアレンジ)			担当：小山
第4回目	ヘアー④ スタイリング基礎の展示と実技(基礎的なヘアーアレンジ・和装等)			担当：小山
第5回目	ヘアー⑤ 骨格やファッション等から考える似合わせるスタイリング・ヘアーアレンジ			担当：小山
第6回目	ヘアー⑥ 流行を取り入れたヘアーアレンジ技術			担当：小山

第7回目	ヘアー⑦ イメージをデッサン・実技	担当：小山
第8回目	ヘアー⑧ 応用 (ファッションショー等のヘアーアレンジ) [発表・レポート]	担当：小山
第9回目	メイクアップ ① 基礎知識 (肌の構造・化粧品の種類・スキンケア)	担当：杉山
第10回目	メイクアップ ② 基礎 (年齢や顔立ちに合わせたベースメイク、ポイントメイク)	担当：杉山
第11回目	メイクアップ ③ 応用 (ファッションに合わせたメイク技術・ショー等のポイントメイク) 「発表・レポート」 [担当：杉山	
第12回目	ネイルアート ① ネイル道具の説明と使用方法	担当：頼実
第13回目	ネイルアート ② 爪の基礎知識	担当：頼実
第14回目	ネイルアート ③ 基礎	担当：頼実
第15回目	ネイルアート ④ 応用 [発表・レポート]	担当：頼実
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	積極的に授業に参加し、楽しく受講することができていたか。忘れ物はなかったか。
レポート	30%	テーマに沿った内容(ヘアー・メイク・ネイル)のトータル美の視点で、きちんとまとめられていたか。期限の提出であったかなどを評価する。(S規準評価)
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)	40%	技術はきれいに仕上げているか、創意工夫がされているか、ファッショントータル美の感性を向上させることができたかなどを評価する。(S規準評価)
その他		
教科書と参考図書		
適宜、サンプルや教材を指示。プリント使用。		
履修上の留意点・ルール		
テーマ別の受講は認めない、身だしなみに注意。日ごろから自身の人格形成に向上心を持つことを望む。受講時に材料費の集金をする。		